



石川県立  
鹿西高等学校



# 学校だより

第23号

— 鹿西高校生の4～6月の活躍の様子を紹介します —

## 北信越大会

陸上：松本平広域公園陸上競技場  
レスリング：高岡市竹平記念体育館

### 本校の成績

- 陸上競技部 男子 100m 第2位 清水 悠汰 (北信越大会出場)  
200m 第7位 清水 悠汰  
女子 7種競技 第7位 南 和希
- 卓球部 女子 団体戦 第3位
- 英語同好会 イングリッシュフェスティバル  
スピーチ部門 第3位 竹中 景音
- レスリング 80kg級 第2位 清水 悠汰 (北信越大会出場、ベスト8)

6月15日(土)～16日(日)にかけて陸上競技部・レスリングの清水悠汰君が「二刀流」で北信越大会に出場しました。陸上ではインターハイ出場の期待もあったのですが、北信越の壁は厚かったです。結果には恵まられませんでした、どちらも県代表として立派に戦い抜きました。



## 校内陸上競技大会

6月4日(火)に校内陸上競技大会が行われました。当日は天候にも恵まれ、熱気と活気にあふれる1日となりました。特にクラス対抗リレーでは一生懸命クラスの代表を応援する様子がみられました。生徒会や陸上部を中心に、生徒全員で準備・運営に関わり、出場した種目では全力を尽くすことのできたいい1日となりました。



## 入学式 4/8 (月)

4月8日(月)に入学式が行われ、新入生112名が大西誠校長から入学を許可されました。どの生徒も緊張していた様子でしたが、これから始まる高校生活に期待をしている様子が伺えました。入学後はそれぞれのクラスでの最初のホームが行われました。



## 「総合的な探究の時間」

1年生

6/10(月)「里山里海ミュージアム」見学、6/24(月)「アドバイザー講演会」

今年度より始まった「総合的な探究の時間」では、地域を理解し、ローカルな視点から探究課題を見つけ、グループで研究を進めるという取組をしています。1年生では探究テーマを設定するために、地元施設を訪問したり、講演会を通して能登の自然や歴史、文化について学びました。



## 人権教育講話

6/17 (月)

### ■生徒感想文

「生まれながら身体が不自由であり、人一倍嫌なことや辛いことを経験しているのにふてくされたりせず、心の中では母親の辛い気持ちまでも母親の背中を感じて謝り、また、感謝している詩を読み、講師の先生のお話しによって、心で聴き取ることができました。どんなに人と比べてしまっても持っている命は皆同じです。決して失ってはいけない尊い命であり、大切にしていくなさだと思改めて感じました。自分が辛くていなくなりたいと思っても、今こうして歩けること、話せること、書けることの有り難さに感謝して、一日一日大切な瞬間を過ごしていこうと思います。」(2年生・女子)

### ■生徒標語

「辛さとは人知れぬ幸せ 無駄じゃない」(2年・女子)  
「思い遣りそれがあなたの原動力」(1年・男子)

北電財団「元氣創世塾」のご協力を得て、書道家の三藤観映氏を講師としてお招きし「人を思い遣る心」と題して講話をしていただきました。三藤氏は、脳性麻痺のためにわずか15年の生涯を閉じた「やっちゃん(山田康文君)」の、「お母さんぼくが生まれてごめんなさい」の詩に感銘を受け、「自分の命を大切にすることが、人を思い遣る心に通じていく」ということを、ご自分の書によって「やっちゃん」に代わって伝えていきたいという趣旨のお話でした。命の尊さについて考えさせられる貴重な機会になりました。



## 高文連文化教室

6/13(木) 七尾サンライフプラザ



今年度の文化教室はミュージカル「はだしのゲン」を観劇しました。世界で初めて原子爆弾が投下された広島。8月6日直後の惨劇の様子や、被爆後奇跡的に生き残ったにも関わらず、その後遺症を引きずりながら生きていく人々の様子がとてもリアルに伝わってきました。原爆で亡くなった父の「麦のようにたくましく」という遺言を糧に力強く生きようとする「ゲン」を通して、「絶対に繰り返してはならない歴史がある 過去を忘れぬ先に未来はある」ことをしっかりと心に刻む機会になりました。

